

第2回、第3回琵琶湖部会（現地視察）の概要

1. 第2回琵琶湖部会（現地視察）の概要

（1）開催日時

平成13年6月8日（金）8:50～18:00

（2）視察ポイント等

現地視察を2回に分けて実施（次回は6月25日（月））

初回の現地視察となる第2回部会では直轄管理区間である丹生ダムとその下流の高時川・姉川、犬上川・宇曾川等の琵琶湖へ流入する河川、第2回委員会、第1回部会で意見が出された新海浜等琵琶湖北部を中心に視察。

次回は琵琶湖南部（野洲川、草津川、瀬田川、南郷洗堰、西の湖等から選択して視察）を予定

（3）概要

高時川、姉川では、天井川となっている河川の状況と堤防等の整備状況について視察。委員からは「昔から引き継がれてきた住民参加による水防対策の継承が必要」「ハザードマップについては地域を良く知る住民も含めて作成するのも1つの方法」などの意見が出された。

丹生ダムの建設予定地では、ダムの必要性、効果等について説明を受けた。委員からは「丹生ダムによりどの程度琵琶湖の水位が変動するか」「ダムの課題・問題点はどのようなものがあるか、それに対してどの程度まで対応でき、どのような議論があるのか」等の意見が出された。

丹生ダムでは、一般傍聴者として地域の方々も参加した。一般傍聴者からは「新たなダムをつくるより、森林の整備で対応できないか」などの質問があり、「森林整備の効果が期待できるのは荒れ地に植林をする場合である。日本のような既に森林が多い地域では効果は期待できないのでは」など委員からの意見も交え、現地でディスカッションを行った。

新海浜では、浜の状況と対応策について視察し、説明を受けた。現地で参加した一般傍聴者からは、資料が配布され、新海浜の現状が説明された。委員も交えての議論では、委員の1人から要因構造についての説明があり、「水位を上げればどこかで問題があり、水位を下げれば別のどこかで問題が生じる。影響を少しでも少なくしていくことが重要」などの意見が交わされた。また、解散場所までの途中経路において、次回視察予定となっている西の湖に立ち寄り、地元住民の説明を受けた。

2. 第3回琵琶湖部会（現地視察）の概要

（1）開催日時

平成13年6月25日（金）9:30～18:00

（2）視察場所等

琵琶湖部会では現地視察を2回に分けて実施。

初回の現地視察となる第2回部会では直轄管理区間である丹生ダムとその下流の高時川・姉川、犬上川・宇曽川等の琵琶湖へ流入する河川、第2回委員会、第1回部会で意見が出された新海浜等琵琶湖北部を中心に視察。

次いで行われた第3回部会では琵琶湖南部を視察。琵琶湖と淀川の治水、利水のために琵琶湖からの放流量を管理している水位管理を行っている瀬田川洗堰、市街地を流れる都市河川の氾濫による浸水被害を軽減する大津放水路（工事現場）、直轄河川である野洲川、草津川、ヨシの育成のための水位の安定化などが議論となっている西の湖、水性生物を利用した水質浄化方法等を行う施設を整備中の志那中内湖などを視察した。第2回、第3回の部会で直轄区域を含む琵琶湖東岸を視察した。

西の湖では周辺の住民との意見交換が行われた。

（3）概要

瀬田川洗堰では、「洪水が来ても大丈夫であり、かつ、濁水に対する備えや琵琶湖の環境保全が可能のように調節している」との説明があり「冬場に放水すれば琵琶湖の水質は良くなるのでは」などのとの意見が出された。

盛越川、大津放水路では、過去の水害の履歴の質問が委員より出され、「昭和60年までは年に2回あふれることがあった」との回答や、「洪水時には都市河川に流入する雨量の約6割を大津放水路で受け持ち瀬田川へ直接放流することにより、下流の浸水被害を軽減する」との説明がなされた。

西の湖では、河川管理者からの説明について「冬場の水位が高いためヨシの刈り取りができず、ヨシの発育に問題が生じた」など、西の湖で起こっている問題について地元住民の説明があり委員との意見交換が行われた。委員からの水質の悪化とヨシの質や生育の関連に対して、地元住民より「昔はほとんど排水を川に流さず、かつ、ヨシが浄化をしていたが、今は川から排水が流れ込み黒ずんだヨシができています」との答えがあった。また、水位の関係では「水位の高い年には5月に伸びたヨシが産卵場所になり、魚にとっては都合がよい。ヨシを高く刈るなどによりお互いうまく対応することも可能では」との意見が寄せられた。また、地元住民からは「水位の変動が激しかった昔の状態に戻して欲しいのではなく、ヨシの生育と琵琶湖の環境を考え水位を低く設定して欲しい」との意見が聞かれた。